探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：西城中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
庄原市立西城中学校	5	66
庄原市立西城小学校	8	101

（R4.11.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）　研究テーマ及び研究のねらい

①　研究テーマ

西城町のひと・こと・ものを活かした探究的な学習の創造
～元気な西城町をめざして～

②　研究のねらい

西城中学校区のプロジェクト型学習の考え方として，「西城町を元気にする」という目標を持ち，各学年の発達段階や特徴的な行事と関連させながら，地域教材及び人材を活用し，地域を巻き込んだ単元開発を行う。外部との連携，校外への取組成果の発信を工夫しながら学習を進めていくことで，児童生徒の意欲や達成感を高め，自信につなげていき，中学校区で育成したい資質・能力の向上を図る。

（２）資質・能力の設定について

中学校区では，育成したい資質・能力として「主体性」「協調性」「課題解決力」の３つを設定している。全体計画と整合性を図り，今年度の資質・能力の具体的な姿を，西城中学校区で育成したい資質・能力の観点（表１）で見直し，整理した。

資質・能力	観点
主体性（どんどん）	主体性　自己理解　社会参画　将来設計
協調性（ほかほか）	他者理解　協働性
課題解決力（じっくり）	課題の設定　情報の収集　整理・分析　まとめ・表現　振り返り　知識・技能

（表１）西城中学校区で育成したい資質・能力の観点

今年度は，昨年度の課題であった「主体性」の育成に力を入れて取り組むこととし，中学校では，「主体性」における具体的な姿（表２）を生徒に提示し，各学習活動で意識させた。

観点	授業での具体的な姿
主体性	分からなかった所は聞いたり調べたり，困難な所は工夫したり改善したり，学習や取組の目標に向け，行動しようとする。
自己理解	学習や取組等の活動場面では，自分の強みを活かそうとする。
社会参画	進んで身の回りの生活等の課題解決に取り組もうとし，地域で開催される行事等に参加しようとする。
将来設計	学習や取組等の活動を自分の目標や将来につなげようとする。

（表２）「主体性」における具体的な姿

（３）取組について

本中学校区では３つの新たな取組を実践し，１つの取組の充実を図った。

【新たな取組①：単元開発（西城小・中）】

本中学校区では，２つのことをポイントとして，新たな単元づくりに取り組んだ。

1つ目のポイントは，単元を構成している探究の過程である。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り」を１つの小単元（プロセス）とし，単元のゴールに向けて小単元（プロセス）をステップアップしながら積み重ねることで，１つの単元（ストーリー）として構成をしていく。

２つ目のポイントは，７年間の総合的な学習の時間がつながる単元づくりである。小３から中３までが系統的に学習できるようキーワードを設定し（図１），学習の連動性を図っている。

（図１）学習の系統キーワード

小学校では，地域とのつながりをもち，中学校では小学校での地域のつながりを活かし，再度地域課題を見つめ，自分たちの思いを行動にし，地域に還元する。また，学年によっては，特徴的な学年行事（例：中２職場体験学習）とも関連させ，地域の活性化につながる単元開発を行っている。

【新たな取組②：プレ探究学習（西城小・中）】

各学年の単元を学習する前に，プレ探究学習として全校児童生徒による総合的な学習の時間を設定した。このプレ探究学習は２つのことをねらいとしている。

１つ目は，探究の過程を児童生徒に体験をもって理解させることである。小学校では「学校をより楽しくするための取組を考えよう」をテーマに，学校生活での課題から，自分たちでできる解決策や取組をグループで考え，提案する。中学校では，「伝えよう！わたしたちの校歌」をテーマに，身近な校歌から地域を想起させ，校歌を歌声以外の表現方法としてできることを考え，ロゴマークで校歌を表現し，情景や思いを伝える。プレ探究は，ねらいを絞って１つの小単元（プロセス）で完結する単元構成とした。

２つ目は，異学年集団による活動を仕組み，各自の役割や協働性を高めることである。縦割り班で活動することで上級生がこれまで学んだ総合的な学習の時間の学習の仕方を活かしながら下級生をリードし，各自の力を引き出し，チーム力を発揮させた。

【新たな取組③：探究レポート（西城中）】

夏季休業中の時間を利用して探究レポートとして個人探究を行った。探究レポートは２つのことをねらいにしている。

１つ目は，各自が課題解決に向けて探究を進められるようにすることである。そのために，これまでの学習と関連させた課題を設定し（表３），これまでの学習過程も踏まえて探究し，取組や小単元（プロセス）のつながりを意識できるようにした。

１年	全国の人々に庄原市をＰＲするとしたら，庄原市のどんな自然をどのように活用してＰＲしますか。
２年	農家の広報担当として，農業体験先の特産品を西城町以外の皆さんにも知ってもらい，食べてもらうためのアイデアを考え，体験先に提案するための企画案を考えよう。
３年	西城中学校のＯＢに，西城や西城中学校の思い出を振り返ってもらえるプレゼントを在校生から送りたいと思います。３年生として生徒会に提案できる企画を考えよう。

（表３）各学年の探究課題

２つ目は，課題解決までの取組を計画し，実行できるようにすることである。そのために，ワークシートで探究の過程を示し，整理しながら学習を進められるような構成にした。テーマに沿って，自分で仮説を立て，探究方針（計画）を考える。そして，調べたことや計画に沿って実行したことをもとに，自分の思いや考えをまとめ，各自で結果を導き，考察させることを意識させた。

【充実を図った取組：資質・能力の評価（振り返り）（西城小・中）】

児童生徒の変容をより具体的に把握し，指導に活かすとともに，児童生徒が自己の成長や変容を意識できるよう，ポートフォリオの充実を図った。具体的には「毎時間の振り返りシート」と「プロセスの振り返りシート」を統一様式として作成し，活用した。その振り返りシートでは，２つのことをポイントとしている。

１つ目は，振り返るポイントを絞ったことである。毎時間の振り返りでは，昨年度課題となった生徒の主体性を伸ばすために，主体的に取り組めた状況を生徒に提示し，振り返りを行わせる。また，小単元（プロセス）の振り返りでは，目標を意識して活動できるよう，小単元（プロセス）の初めにゴールイメージを共有させ，終わりにもそれに対する振り返りをさせるようにしている。

２つ目は，学びの連続性を意識させたことである。取組の成果や課題をもとに，毎時間の振り返りでは，次時の学習活動を計画させたり，プロセスの振り返りでは，次のプロセスの目標や学習活動を設定させたりして，次の学習活動に見通しをもって取り組めるようにしている。

２　実践事例

【プレ探究学習】

小・中学校それぞれで課題を設定し，全校（小学校は３～６年）児童生徒で取り組む総合的な学習の時間を４月に設定した。

（例　中学校の取組）

（1）プレ探究テーマ

「伝えよう！わたしたちの校歌」

（2）単元のゴールイメージ

校歌に込められた思いを表現する。

（3）活動内容

①　課題の設定

やってみようと思える課題とゴールイメージの設定

「課題の設定」では，本校区の総合的な学習の時間のテーマ「郷土を考える」と関連させ，西城をイメージできる身近な校歌を題材とした。

・「コロナ禍のため，校歌を歌声以外の表現方法で伝える工夫を考えてほしい」という校長先生からの手紙を課題解決のスタートとし，新たな校歌の表現方法の創出に取り組み，歌声以外の表現方法の案をグループで考えた（図２）。

◎ 校歌に込められた思いが伝わる。
◎ 目に見えるカタチで表現できる。
◎ 校章と同じように，学校のシンボルとして活用できる。
◎ 総合的な学習の時間をはじめ，あらゆる場面で活用できる。

（図２）新たな表現のポイント

・各グループの案をジャムボード上に出し合い，ミートで協議しながら案を絞り，方向性を決めた。

（最終的にはロゴマークの作成をゴールイメージにした。）

②　情報の収集，整理・分析

生徒の主体的な活動

ロゴマーク作成にあたり，どのような情報が必要か，またどのように情報を収集するかを検討し，取組を進め，各グループで１つのロゴマークを作成した。「整理・分析」では，校歌の意味の捉え方を広くもたせ，各グループが独自の視野をもってロゴマークのデザインの方向性を決めた。その後，個々でロゴマークの案を考え，考えたロゴマークをグループ内で交流し，グループでのマークを作成していった。

作成にあたっては，生徒個々の得意なことを活かした役割分担を行い，グループのパフォーマンスを高めた。

③　まとめ・表現

自分たちの思いや考えを相手に伝える

まとめでは，完成させたロゴマークに込めた意味を各グループが発表し合い，校歌への思いやロゴマーク作成への思いを共有した。プレゼン後は，視点に沿って各グループのロゴマークを評価した。（いちばん票の多かったロゴマークを西城中学校の新たなシンボルマークとして活用することにした。）最後に，振り返りシートを活用してプレ探究での活動を振り返った。

（図３）完成したロゴマーク

３　研究の成果と課題等

（1）成果

成果は次の２つである。

１つ目は，児童生徒に実施した資質・能力に関するアンケートの主体性の項目における肯定的回答が大きく向上しており（表４），児童生徒が主体性を意識して活動し，その伸びを感じていることである。

観点	西城小		西城中	
	５月	11月	５月	11月
主体性	59.0%	67.8%	54.9%	82.8%
自己理解	62.1%	68.8%	48.5%	82.5%
社会参画	70.5%	73.1%	66.3%	91.0%
将来設計	83.1%	80.6%	37.3%	77.7%

（表４）「主体性」の項目における肯定的評価の割合

向上の要因は，主体性を意識した振り返りであると考えている。毎時間，主体的にできた姿を提示し，その姿をもとに振り返りを行い，生徒に意識付けをした。また，次時の取組内容や次のプロセスでの活動内容を考えさせた。この振り返りにより，ゴールへの見通しがもて，自分たちで計画，実行することができ，達成感につながった。

２つ目は，生徒の資質・能力に向けた新たな取組を考え，実践し，一定の成果を得たことである。プレ探究では各学年の単元の前に行ったことでプロセスを通して探究の仕方の理解につながった。また，探究レポートでは自主的に個人探究を行うきっかけにすることができた。

（2）課題

課題は，次の２つである。

１つ目は，積極的に表現する力が十分ではないことである。設けられた機会に対して準備し発表することはできているが，自ら積極的に発表しようとしたり，即興で表現したりすることには自信がもてていない。表現をする機会や場面が固定化されていることが，要因の一つと考えている。

２つ目は，探究過程における「整理・分析」の学習活動が十分には機能していないことである。アンケートにおいてもこの項目の肯定的回答は，小学校68.8%，中学校58.4%と低い。また，中学校での探究レポートの多くは，計画に重きを置き，実現に向けての分析が不十分であった。情報の整理・分析の仕方についての指導が単一的になっていることが，要因の一つと考えている。

（3）今後の改善方策等

課題を踏まえて，「積極的な『表現』」と「『整理・分析』の学習活動の充実」に向け，次の２つの取組を進めていく。

１つ目は，学習の振り返りの場面で，振り返りを記入するだけでなく，本時の学びをスピーチさせたり，教科においても自分の考えを表現させたりする機会を設定する。

２つ目は，表やグラフ等にまとめたことを考察させたり，表やグラフの結果を関連付け整理させたり「整理・分析」の内容の充実を図る。また，次年度の新たな取組として，児童生徒の興味関心を個人探究につなげていく「探究ノート」を，教科等横断的な取組として進めていく。